海洋の持続可能性と豊かなブルーエコノミーのための2030アジェンダ（SDGs）のローカライゼーション【抜粋】

私たちの海の健全性は、地域社会、経済、そして地球全体の健全性と切り離せない関係にあります。

2030アジェンダ（SDGs）の折り返し地点が近づく中で、海洋とその資源の持続可能性を実現するには、グローバルな約束だけでなく、地域に根ざした行動が不可欠であることがますます明らかになっています。

持続可能な開発を地域の現実に根付かせることで、SDG14（海の豊かさを守ろう）の前進を加速させるだけでなく、海洋生態系を保護し、持続可能なブルーエコノミーを推進し、公平性と世代間の正義を守るための、より強靭なコミュニティを築くことができるのです。

スペイン・バスク地方のベルメオ・ツナ・ワールド・キャピタルは、世界のマグロ資源の持続可能性において重要な役割を果たしています。

ブラジル・パラナ州では、パラナ2030ハブを通じて、学術界と行政が連携し、海洋科学、クリーンオーシャンネットワーク、州レベルでの海洋持続可能性への取り組みを推進しています。

静岡市は現在、静岡県、MaOI機構、地域の大学や企業と共同で、「駿河湾・海洋DX先端拠点化計画」と呼ばれる10か年計画を実施しています。このイニシアティブにより、次世代の人材育成、研究開発、そして事業化を通じて、持続可能で最先端のブルーエコノミー拠点を創出します。

ハワイでは、グリーン・グロース・ハブおよびLocal2030アイランズ・ネットワークが、文化的遺産と生態系の限界を尊重した、再生可能な観光や循環型ブルーエコノミーのモデルを先駆的に展開しています。

これらのローカライゼーションの取り組みは、孤立したものではありません。

それぞれが、持続可能な開発を社会や地域の中心に据えるための、革新とシステム変革のグローバルなエコシステムの一部をなしています。

国連海洋会議に集う今、私たちは国際社会に対し、SDG14の実現におけるローカライゼーションの重要な役割を認識し、支援するよう呼びかけます。

何よりも、私たちは、大陸や文化の違いを越えて協力し、ブルーエコノミーを持続可能なだけでなく、公正で、包摂的で、レジリエントなものにしていくという決意を、改めて表明します。

海は私たちすべてをつなぐ存在です。

私たちの行動がどこから始まろうとも、それが波紋のように広がり、水の中の命を守り、回復させていけるようにしていきましょう。